



すゝめ

患者さんと慶應義塾大学病院をつなぐ
コミュニケーションマガジン



有備無患 ～災害に備えた専門チーム～

災害拠点病院である当院は災害時に活動できる機動性を持つ医療チーム（災害派遣医療チーム:DMAT）を有しています。自然災害を含む大規模な災害・催事対応において必要な医療体制を構築・支援し、傷病者の生命を守ります。

K E I O
UNIVERSITY
HOSPITAL

Communication
Magazine

Vol. 21

March 2024

ご自由に
お持ちください

広報誌タイトル「すゝめ」とは

タイトルは明治5年から9年にわたって出版された17編を数える
福澤諭吉の大ベストセラー『学問のすゝめ』に因んでいます。

救急医療は社会のセーフティー・ネット

セーフティー・ネットとしての救急センター

慶應義塾大学病院救急センターは24時間365日、救急科専門医資格を持つ救急医が常駐し、独歩受診から重篤な救急車搬入患者さんまで、診療科を横断する多彩な傷病の患者さんの診療を担っています。このような体制を充実させることは難しく、全国的にも稀有なシステムです。2018年の新病院棟への移転に伴って、当救急センターは17床に拡充されました。診療ブースの個室化も手伝って、新型コロナウイルス感染症などの感染症の流行極期にも、効率良く救急患者さんの受け入れを果たしています。2023年には救急車

受入台数が8,000台を超え、当院の最多記録を更新しました。救急要請件数自体の増加に伴って、多くの救急医療機関では応需率が低下する中、当院は応需率を維持しています。都市部の大病院として、重症かつ複雑な病態の患者さんの受け入れを強化する一方で、院内で発生した急変時にも救急センターの医療チームが駆けつけ診療を担っています。当救急センターは社会のニーズに対応するセーフティー・ネットとしての救急医療を展開しています。

前方連携の強化

当院は、当日に専門医の受診が必要な患者さんや高度な医療を必要

とする他医療機関からの紹介患者さんの受け入れに注力しています。迅速かつ円滑な診療の移行を目的として、専用の慶應ホットライン回線を開設し、緊急受診の窓口を救急科が担っています。また、2023年秋に麻布台ヒルズに開設した予防医療センターで発生した傷病の救急医療対応も救急科が担当しています。

入院業務

High Care Unit運営

救急科では、多発外傷・重症外傷、熱傷、中毒、低体温症、熱中症、敗血症、急性腹症、心停止蘇生後症候群、軟部組織感染症などの傷病を担当し、入院加療を行っています。救急科に入院する多くの患者さんは、集中治療といわれるさまざまな医療機器を用いた集学的治療を必要としており、原疾患の治療が奏功するまでの間、種々の臓器障害に対する治療も並行して行っています。

また、外傷や熱傷、急性腹症では手術など侵襲的治療が必要となることがあります。24時間いつでも緊急手術を行えるような体制を構築し、必要な治療が必要な時に行う方針としております。特に、休日・夜間帯に救急車で搬送されてくる患者さんが緊急手術や集中治療を必要とすることが少なくないため、夜間であっても日中と同等の質の医療を提供できるよう、スタッフ一同が



協力して絶え間ない治療を行っています。

慶應病院には、集中治療センターとしてHigh Care Unit (HCU) と呼ばれる病棟がありますが、そこには集中治療を要するさまざまな診療科の患者さんが入院しています。救急科はHCUに入院する患者さんの安全を確保するため、24時間体制での入退室の管理を行い、また必要に応じて主診療科チームと協働して安全で質の高い集中治療を提供しています。

救急科 医師
さ さ き じゅんいち
佐々木 淳一



慶應義塾大学病院DMAT隊と能登半島地震

Disaster Medical Assistance Team

(DMAT)は、災害急性期に活動できる機動性を持った災害派遣医療チームです。DMATは医師、看護師、業務調整員(医師・看護師以外の医療職や事務職員、通称ロジ)で構成され、大規模災害や多傷病者事故などの現場で急性期から活動できるように、専門的な訓練を受けています。また、慶應病院ではBCP(P6ご参照)と連携して院内の災害訓練を企画・運営し、病院が被災した際に安全・迅速に災害拠点病院としての機能を発揮できるように努めています。

DMATの隊員は、災害の際の活動を円滑に行うため、年に数回の実働訓練に参加します。全国規模の訓練では九州・四国といった遠隔地に参集することもあり、大型の医療機器を含めた多くの資材を飛行機で運搬し、現地で車を確保して早朝から被災想定地域へ向かうこともあります。訓練エリアが近隣の場合には1日で終了することもあります。遠隔地では2日以上にわたることもあります。これらの訓練を通じて得られた課題は、月1回の院内のDMATワーキング



輪島市役所内のDMAT活動本部

グループにて解決案を相談します。訓練の度に必ず新たな課題が浮き彫りになり、毎月話し合う題材はつきません。備えあれば患いなしを体現するため、非災害時での濃密な話し合いを通じて、隊員個人およびDMAT隊としての成長を図っています。

DMAT隊は現地での医療活動が想定されるため医師、看護師、ロジから構成されますが、職種に関わらず全隊員が、ライフラインが途絶えた被災地での自立生活、活動中の自己および隊の安全管理、他のDMAT隊との連携、病院外で



DMAT

の医療活動などに関して、知識・技術を獲得しています。その上で、医師は隊員全員の体調管理や医療活動の取りまとめと実施、看護師は医療活動における医師のサポートや被災者に寄りそった身体・精神面のケア、ロジは隊の機動力を確保した上での長距離運転や隊の活動記録などを分担して行います。普段は皆それぞれの職場で全く異なる通常業務を行っていますが、災害派遣や訓練の際にはチーム一丸となって取り組みます。

さて、令和6年1月1日、日本中が深い悲しみに包まれました。



慶應病院DMAT隊のステッカー

マグニチュード7.6、最大震度7の能登半島地震は、いまだ多くの被災者が厳しい生活を余儀なくされています。1月11日午前、我々DMAT隊は、東京都DMAT調整本部からの指令に基づき5名の隊員が能登半島へ出動しました。途絶したライフラインと長期活動を考慮してキャンピングカーでの移動を選択し、1月12日午後2時頃、参集拠点である輪島市役所内の輪島市保健医療調整本部に到着しました。多くの家屋が倒壊し、ほぼすべての道が地割れしており、市役所周囲も液状化現象で安全とはいえない地域でしたが、少しでも被災者の負担を軽くするよう到着直後から活動を開始しました。慶應DMAT隊は隊長がDMAT活動拠点本部の副本部長の任に就き、関東地方から派遣されたDMAT隊最大11隊を指揮しながら、市内福祉施設および入居者の支援を行いました。多くの要介護者の避難を実施する中で、被災者の方々と交わした会話は深く記憶に残っています。非常食と寝袋生活に

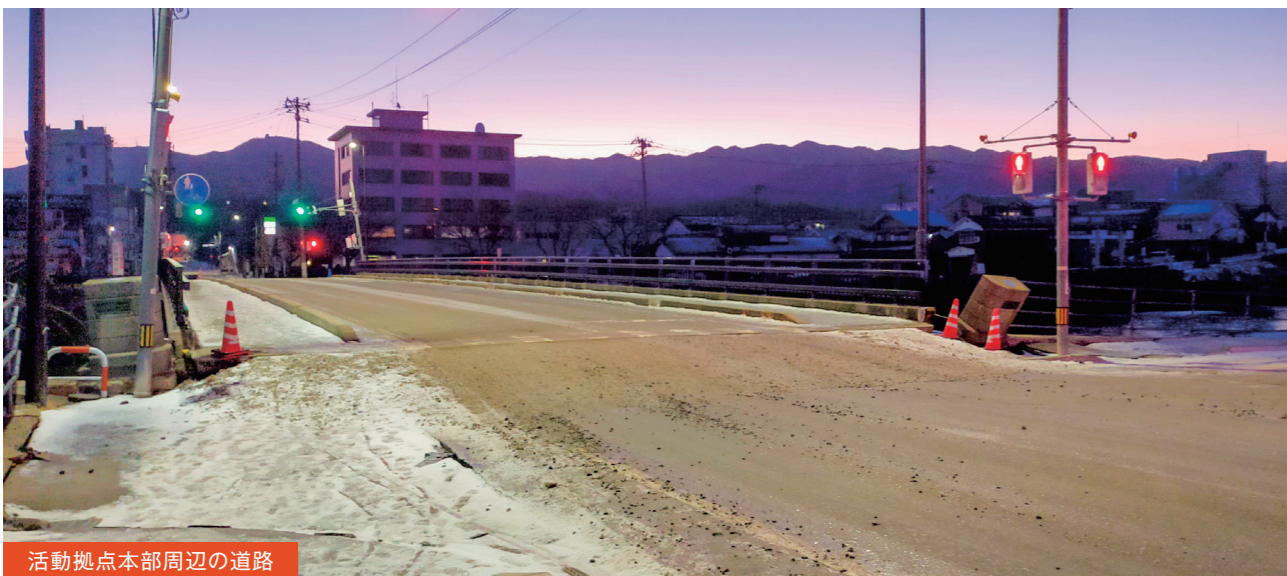
慣れてきた現地活動7日目に、新たに来たDMAT隊へ業務を引き継いだ後、帰路につきました。



活動本部での記録の様子

ほとんどの隊員にとって初めての災害派遣でしたが、1月19日午後、隊員一同無事に帰ってこられたのは、DMAT隊を支援して下さったすべての方々のお陰だと感じています。

なお、DMAT隊は病院内での活動を再開しており、今後も続く能登半島への慢性期医療支援の調整、来年度に予定された院内災害訓練の準備などを進めています。



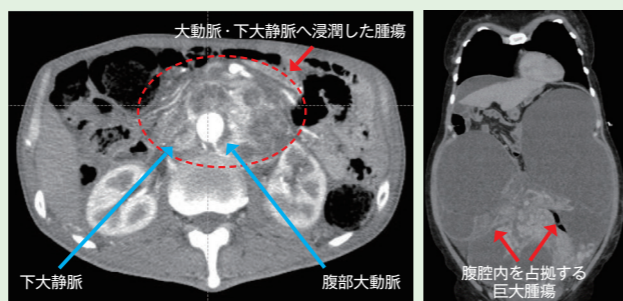
活動拠点本部周辺の道路



— 外科的切除が困難な腫瘍にエキスパートが集結し挑む — 大血管浸潤腫瘍治療センター

2023年10月より大血管浸潤腫瘍治療センターを開設いたしました。大血管浸潤腫瘍とは、大動脈や下大静脈といった大血管を巻き込んで成長（浸潤）した腫瘍の総称です。大血管に浸潤する腫瘍は抗がん剤や放射線照射では治療効果が得られないことも多く、その場合は外科的手術（手術で腫瘍をすべて摘出する）が唯一の治療法となります。しかしながら、本疾患に対する外科的手術は、さまざまな臓器の合併切除や、浸潤された大血管を切除し再建するリスクの高い高難度手術であり、必然的に手術を行うことができる施設は限られてしまい、施設によっては手術不能とされることも少なくありません。

慶應義塾大学病院では、正確な診断の下、適切な治



療方針の決定から、外科的手術の適応判断と実践、および周術期管理を行うべく、全22部門のエキスパートが一枚岩のチームとなって診療を行うことのできるセンターを立ち上げました。これまでの豊富な診療経験に基づいて、個々の患者さんに応じた最適の治療方法を検討し、外科的治療のみならず、抗がん剤治療や放射線照射等あらゆる治療手段を駆使して全力で治療にあたっております。

本疾患を専門的に扱う施設は全国でも稀であり、本疾患と診断されてもどこに受診すべきか悩まれている患者さんや医療機関は数多く存在すると考えられます。どうぞお気軽に当センター（主な窓口：一般・消化器外科）までご連絡ください。



大学病院が取り組む災害時のBCP（事業継続計画）

BCPとは災害などの緊急事態における企業や団体の事業継続計画（Business Continuity Planning）のことで、特に日本では2011年の東日本大震災をきっかけにその重要性がますます注目されてきました。

防災マニュアルが、災害時に患者さんや従業員の安全、資源の確保を目的とするのに対し、BCPは災害時でも病院の医療機能提供を維持することが目的です。特に災害拠点病院においてBCPは大規模災害などの緊急事態に必要不可欠で、当院では2013年に初版を作成し、その後、元消防庁の専門家による見直しなどの改定を経て、2022年8月に第3版が完成し現在に至っています。



病院長、副病院長も参加して被害（想定）の対策を検討します



DMAT隊の本格的なシナリオによる災害対応訓練の様子

その後もこのBCPの検証も含め、当院DMAT隊の主導による災害対応訓練を定期的に行っており、病院長、副病院長、看護部長も参加して、いざという時に迅速に対応し患者さんへの医療の提供が継続できるよう病院一丸となって努めております。

病院や社会の状況は常に変化を続けていますので、策定したBCPの内容も定期的に見直し、改善していくことが大切です。BCPは緊急時において患者さんや医療従事者、そして病院機能を守るための砦になる計画です。深刻なリスクに直面しても冷静に対応できるよう、今後もBCPの見直しに積極的に取り組んでまいります。

2024年度の外来診療日の変更について

2024年9月23日(月)、11月4日(月)、2025年2月11日(火)、3月20日(木)は外来診療日といたします。また、2024年8月31日(土)、2025年3月29日(土)は、第5土曜日ですが休診日となりますのでご注意ください。

※1月10日は以前は慶應義塾の休日として休診日でしたが、現在は外来診療日となっております。2025年1月10日(金)も外来診療日です。

患者サロン

がん相談支援センターでは「患者サロン」を定期的に開催しています。2023年10月から対面開催を再開しました。テーマごとに講義、交流会の時間を設け、スタッフ・参加者同士での情報交換を行っています。最新の情報は、下記QRコードをご確認ください。皆さまのご参加をお待ちしております。

【2024年度 開催予定】

第1回 2024年 6月
管理栄養士による「がん治療中の食事について」の
レクチャーを予定しています。

第2回 2024年 9月

第3回 2024年 12月

第4回 2025年 3月

【お問い合わせ】

慶應義塾大学病院 がん相談支援センター
電話：03-5363-3285

最新の情報は
こちらの
QRコードか
らご確認ください。



3号館(南棟)3階オープン

2024年5月を目途に、3号館3階での外来を開始します。ここでは、大学病院としての専門性を活かしつつ、メディカル・フィットネス、美容形成、ロボット歩行リハビリ等といった自由診療を提供する準備を進めています。詳細は順次、ウェブサイト等でお知らせいたします。

車いす型自動運転サービス

あみい

WHILLの愛称決定：Ami

すめ第19号での愛称募集にたくさんのご応募をありがとうございました。選定の結果、「移動をサポートし、そばにいて支えてくれる、寄り添ってくれる友達のような存在」であることからフランス語で友達を意味するAmi(あみい)に決定しました。今後ともAmiをよろしくお祈りします。

アンケートに ご協力ください

こちらのQRコードからアンケートにアクセスしていただき、
広報誌すゝめで読んでみたい記事など、ぜひご意見をお聞かせください。



COLUMN

ボランティアサークル50年への感謝を込めて



2023年12月

「ボランティア感謝の集い」より

慶應義塾大学病院ボランティアサークルは1973年に発足し、昨年50周年を迎えました。この間、延べ200人の方々が、外来患者さんのご案内、入院患者さんの買い物代行や小児病棟での読み聞かせ、健康情報ひろば、リフレクソロジーなど多岐に渡って活躍してくださいました。コロナ禍で活動を休止し、メンバーも減ってしまいましたが、2022年6月から患者さんのご案内と健康情報ひろばでの活動を再開しました。昨年12月には4年ぶりに感謝の集いを開催。50年の節目の年を記念してこれまでのメンバーのみなさまにもご参加いただき、懇親会ではボランティア活動の思い出と共に、活動に対する熱い思いを語り合い、病院長から感謝とボランティアメンバーが病院にとって大切な存在であることが伝えられました。これからも患者さんが笑顔になれるよう、共に活動していきたいと思えます。

〈受付時間・休診日〉

外来診療時間 8時40分～12時00分、13時00分～16時00分

面会時間 ※面会は医療上必要な場合に制限させていただいております。

詳しくは病院のウェブサイトをご覧ください。

休診日 日曜日、第1・3土曜日/国民の祝日・休日/年末年始(12月30日～1月4日)
/2024年8月31日(土)/2025年3月29日(土)

※2024年9月23日(月)、11月4日(月)、2025年2月11日(火)、3月20日(木)
は外来診療日です。

〈診療担当医表〉

このQRコードをスマートフォンなどで読み取っていただく診療担当医表がご覧になれます。なお病院入り口脇の電子掲示板にも掲載しています。

